

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4592100020		
法人名	社会福祉法人 清風会		
事業所名	グループホーム みさと		
所在地	宮崎県東臼杵郡 美郷町西郷田代 2208番地		
自己評価作成日	令和6年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内
訪問調査日	令和6年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設で生活されている皆さんが、安全に明るく、自由に活動できる施設である事、出来る事をいつまでも続けられるように職員でお手伝いしながら不自由のないように支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を田畑と山に囲まれた緑豊かな高台にグループホームは立地している。入居者は、見慣れた環境の中で屋外散歩等を楽しめている。入居者の屋内移動時の転倒予防、自力歩行の安全確保のため施設内には廊下、居室に多くの平行棒が設置されており、入居者は自然と平行棒につかまり自力歩行ができる様子が見られた。移動時、自然と平行棒に手を出し支えにする様子から転倒リスクの回避にもなり、職員からの抑制の言葉も使われず安心して見守ることができている。家族・地域とのつながりを維持するため施設外に向くことを重視し、機会を捉え受診をはじめ自宅に戻る、地域内の行事の参加などを心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新たに理念計画を行っている処です。職員全員で取り組みたいと思います。	理念作成を目標に先ずは職員の理解と周知を図るため職員会などで研修を行っている。理念の意義を深める努力がなされている様子が伺えた。認知症ケアを細かく列記されたものが掲示されている。	認知症ケアに対する思い・姿勢は十分に伺えた。十分理解できている管理者・職員間で先ずは優しい・理解しやすい事業所理念ができることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での開催行事はほぼ通常通り実施され、美郷町3大イベントとなる、御田祭開催時の見学、神輿を数か所まで下車しながら見学に走り、椅子を並べて、車外に座り見学する事で地域の知り合いの方々が、声掛けをしてもらったりと楽しい時間が持てた、施設内敬老会を企画し地域の運営推進員の参加で委員との話の出来る場が持てた事、地域防災合同訓練時は、近くの皆さんが防災訓練に駆けつけて頂き、施設状況、利用者状況の把握をして頂く等の交流が持てた。また希望の美容室利用などで外出し地域の一員として交流して頂いた。	地域とのつながりを維持する目的で昔からの祭りなどの機会をとらえて外出している。地元の敬老会などにも参加できるよう家族の協力のもと実現できている。機会を捉え家族との外出も積極的に提案して協力が得られている。地域住民とのつながりを維持する努力が日々続けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所申し込み時に居宅での困りごとの話を伺って、支援方法などの話はさせて頂く機会是有った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの感染課題は現在も常にある中、5壱移行し家族との濃厚なかかわりの場を持って頂きたい考えと、現状は関連施設でのコロナ感染の現状で、家族が提案する、ご家族同伴の外出希望を受け入れるかの判断で躊躇していた。運営推進会議で現状を話し相談、外出者の検査などのしっかり行いつつ実践してみたらと背中を押して頂き外出受け入れの決断と利用者の喜ぶ出来事を実践できた。	運営推進会議には行事や事故なども細かく報告を行っている。家族代表の参加は得ているが、今後は入居者家族にも参加を呼びかけたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時は相談を行いながら、事業運営を行っている。	困りごとなどを積極的に相談できる関係性はできている。運営推進会議の出席も得て相談しやすい協力関係はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	話し合いや勉強会を通しての共通理解を図ることで、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	言葉による抑制防止に力を入れ、平行棒等の活用で転倒予防に努め、職員間でも話し合い、行動抑制をしないケアに取り組んでいる。日中の玄関施錠はしていない。外出を希望する場合は職員が付き添い思いに寄り添っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外研修で、高齢者養護、虐待防止、身体拘束禁止などの場で関連する事項を学び、高齢者福祉の意識を高める取り組みを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設けて職員間で理解をすすめた い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約時の説明、課題が発生した場合、必要な説明、関係者との話し合いも含めて場を設け不安がないような取り組みをおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時は親切な対応を心掛け、家族が気楽に意見、要望、相談ができるよう努めている。	面会は積極的に受け入れている。家族との関りにも気をつけ要望等を聞く努力がなされている。県外の家族とは電話連絡を行い安心感を持てるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で職員の意見を聞いた上で、業務に反映し法人の責任者に伝える仕組みも整っている。	月に1回の職員会で意見を聞く努力をしている。上司に意見を聞く必要があるときは適切につないでいる。日々の関わりの中で聞いた意見なども反映できるように考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各資格取得に向けた金銭的な支援研修参加の支援等を行い、介護福祉士合格後は正職員として起用している、処遇改善加算で給与面でも職員への働き甲斐の有る法人としての取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得、研修を受講する支援等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会やケアマネ協会主催で情報交換や勉強会等を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所契約時の際に、ご家族の想いや要望をお聞きし経過を見ながら、必要な変更や支援の継続を行いご本人の意向に沿った、現状に沿った支援に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の状況や環境等も踏まえて、どのようなサービスが必要か、ご家族と一緒に考え、面会時に報告も兼ねながら状況を伝え、ご家族の意向も把握して関係性がうまくいくように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に、どのようなサービスが必要かをご本人、ご家族と一緒に話、検討しその時々に沿ったサービス提供の必要性を伝えて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員と一緒に、食事時の下膳、茶碗洗い作業・掃除・線瀧物干し作業、たたむ作業等の協力でお互いに支えあう関係にある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	5壱に移行後も感染予防をしながら面会や県外からのご家族との外出機会や、兄弟の自宅、親戚の自宅へ出向き交流が持てるようにご家族の支援に取り組んだ。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆・正月の面会、外出、地域の敬老会への出席支援、美容室利用などで、なじみの人に触れ合う場を設けて支援をさせて頂いた。	地域との関係を続ける努力として入居者の祭り見学、元々の理美容室利用、受診も通院を心掛け馴染みの関係性維持に努めている。地域の敬老会出席も家族の協力を得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係を大切にして席の設定などに配慮して支援させて頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を変わられてから、ご家族と出会う事が有れば、状況を伺ったり、亡くなった際にはお線香をあげさせていただく等の関りを持たせて頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位で検討させて頂き、思いや希望を実現できるように努めている。	可能な限り本人の意向把握に努め、上手く言葉にできない場合は、言葉の端々から意向を聞く努力をしている。家族の協力も求め本人本位の生活の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との関わりを持った方々の情報を頂いたり、日常会話やケアの中で把握した情報を活かして、生き生きと生活が出来るように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活スタイル、活躍したい希望や能力を把握し尊重しながら生活して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で課題・必要な支援を検討し、家族のご希望を伺い計画を作成しケアの実践に努めている。	本人に聞くことを第一としている。意向発言ができない人は家族、職員からの聞きとりを行いながら、暮らしたい場所、何をしたいかなどの把握に努め介護計画を作成し実践につないでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子を記録し、随時必要な振り返りやケアを職員で共通理解し計画に導入しケアに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族を支えるために、他の関係機関との連携で、課題に即したサービス提供の確保に努めた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の見学参加、商店の利用。地域住民の防災面の協力、利用者の方の徘徊への御協力・情報提供などで、ご協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の移動や新しい先生の着任から、昔からかかわりを持った先生との関りが無くなったことで、気にして聞かれることも有ったが、地域の事情からの説明をさせて頂き了解を頂いた。新たな先生との馴染みの関係を築きつつある。	入居者は町内に1か所ある病院を入居前からかかりつけ医としている。定期受診は職員が同行し家族にも協力を依頼している。外出を基本と考え通院が継続されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者と日常、関わりの中での課題や、気づき等の情報を、先生や看護師に伝え、適切な医療が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適切に医療が受けられ、早期に退院が出来るように、医療と相談・家族との相談を行いながら支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に施設の方針を伝えて、時期に際してはご家族、医療と相談しながらご本人へ適切な支援が実施できるよう取り組んでいる。	看取りは基本的にできない体制になっているが、十分な説明、適切な支援に努めている。病院への報告・相談は常に行い連携を図ることを家族には説明し了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の仕方について、美郷町救急隊員の講習を毎年学び取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々と連携した訓練を実施し避難誘導や、消火活動訓練を実施し有事に備えた。	月に1回、防災訓練を行っているが、毎回地域住民の協力が得られている。災害時に備え入居者に「声を出す訓練、笛を吹く訓練」を重点的に実施中である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、誇りやプライバシーを損ねない対応が徹底できるようにしている。	入居する前の生活習慣維持のために環境の配慮を行うなどプライバシーの配慮に努めている。トイレ誘導などの声掛けにも注意し、職員間の情報共有を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員とご利用者がお互いに家族的な関係性の中で、それぞれの気持ちを確かめながら希望のケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事場所の選択、起床時間、お風呂の順番等、利用者の希望に沿って対応し柔軟な対応を心掛けている。朝の起床の早い方の新聞読み支援、テレビの好み等を個人の希望で鑑賞されフロアや自室で遅くまで見られる方など柔軟に対応し支援させて頂いた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べるように、スタンド式洋服掛けや、手近にタンスやクローゼットが有って、自分で選べる環境を整え、好きな服を選んで着用できるよう支援している。地域の馴染みの美容院でパーマや髪染めやカットをご希望に沿って行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	冷凍食品の搬入での提供となっている、利用者には好評とで、栄養バランス、野菜の食材が多く、軟らかい面が評価できる。行事の際は外注でのお膳の利用などで食事を楽しんで頂いている。利用者の協力から下膳、食器洗い作業の参加もある。	肉・魚・野菜など栄養摂取ができるように摂取状況に注意見守りを行っている。年末の時期になると餅つきを計画し、皆で丸めたり食べたりしながら時期的な楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状態を観察しながら、健康管理に反映できるように努めている、水分摂取については朝夕お茶をペットボトルで各自に準備し所持することで水分不足がないようにしている。体重測定で毎月増減把握・健康面との照らし合わせを行って支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者の出来る事に合わせた声掛けや介助をしている。歯科受診が必要な場合は受診し歯の管理をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット・リハビリパンツの利用で入所する皆さんがトイレ利用の状況となっている。失禁の多い方々はリハパン・パットの交換も合わせて行いつつ、トイレ利用の支援を実施している。	トイレでの排泄を目標に平行棒を使い移動の安全確保を行っている。パット・リハビリパンツの交換などもトイレ内で行うこととしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材利用においては、食物繊維の多い食べ物を食事に取り入れられており、腸内環境的には便秘予防の食事の状況にあると判断している。お薬での管理も必要な方がおり、医療との連携で支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、本人の希望で、入浴を楽しめるようにしている。	入浴は週に2・3回を基本とし、無理強いはいないようにしている。本人がその気になるのをゆっくり待つこともある。ゆずの時期にはゆず湯の提供も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの方が自由に部屋やフロアで、ご希望に沿った休息が取れるよう、ご本人の選択に応じてゆっくりして頂いている。その季節の温度に沿った、空調機管理も注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期診察や不定期の診察時に、主治医に症状や経過を報告し、服薬調整時は、連絡簿や会議やミーティングで職員全員に伝えて薬の影響、効果を観察し医療と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、茶碗洗い、好きな歌番組鑑賞、塗り絵、新聞を読むなどの、余暇時間の中で、皆さんが出来る事や・楽しみ事に着目して支援し習慣化されている。100歳体操も習慣化し、日々のADL増強維持につながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に屋外へ行ける方々は抑制することがないように職員間で配慮し、景色を見たりして過ごして頂いている。ご家族希望で地区の敬老会出席、県外在住の息子さんが帰省し、親戚の家へ出かけて楽しんで頂く等の機会が有った。	畑仕事在日常だった入居者の意向をかなえるため日中数回外に出ることが日課になっており、近くの畑で草取りなどを楽しむことができる。可能な限り本人の意向に沿う形でケアの提供を心がけ家族の協力も得られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時より、お金を持っていないと不安な方や、買い物でお菓子や日用品を買う方は、自由にお金が使えるように、家族に話をしてご本人が所持できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で遠方にいる子供さんと話をして頂き、関係性が保てるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調設備が整っており、温度の調整・喚起を行い、心地よく一日を楽しんで過ごして頂いている。	共用の空間は広く、壁飾り・花が飾られ居心地よく過ごせる環境となっている。トイレ・居室への移動のため平行棒が設置され自由に動くことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で過ごせるようテーブルやソファに配慮している。一人になりたい時間帯は自室に戻り横になったりしており、自由に動けるよ、平行バー等を設置し支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	重要事項説明時にお願いし、装飾品や家族の写真、自宅で使い慣れた物を持ち込んで頂くようお願いしている。馴染みの物を持参いただくご家族も有る。	本人が好むものを居室に持ち込み自分らしい空間が維持されている。必要と考えたら居室にも平行棒が設置され自然と手が出て支えとなり、移動時の転倒予防につながっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態に合わせ環境整備を行い、自力で事故なく歩けるを支援した。シルバーカーを使用して歩かれる利用者について、常に見守りが必要で、自分は歩けるようになっていくと認識されて独歩で過ごすことも有り声掛けや押し車を準備する等の支援を実施している。		